防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報　第48号(2011　2 28)
事務局川西地区自主防災会

「助ける側」と「助けを必要とする側」

香川県防災局　防災指導監　乃田 俊信

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様におかれましては、日頃から地域の防災・減災のため訓練や啓発活動にご尽力・ご活躍しておられ、心から敬意と感謝申し上げます。

平成２３年２月２２日１２時５１分頃（現地時間）、ニュージーランド南島クライストチャーチ市近郊でマグニチュード６．３（推定値）の大地震が発生し、市内の多くの建物・家屋が崩壊、多数の方々が被災しました。日本人も語学留学生や旅行者など２７名が行方不明（２月２４日現在）となっております。無理からぬことですが、被災者の誰一人として、外国で大地震に遭うことなど微塵も考えていなかったことでしょう。被災者全員の無事を祈らずにはおれません。

さて、あの阪神・淡路大震災から、早や、１６年が経過しました。被災者を除く一般国民には、すでに風化が進んでいるかも知れませんが、約１００日間にわたり災害派遣活動に従事した私にとって、あの光景は今でも鮮明に脳裏に残っています。被災地に入ってあの惨状・犠牲者を目のあたりにし、「自然（天災）の前に、人間はいかに小さな存在であるか」と、打ちのめされたような衝撃を受けました。その直後、全く逆なことですが、「生き残って救助・復興に立ち向かう人間の逞しさ・力強さ！」には、感動させられました。

大きな災害に遭ったとき、私たちは、大別して２種類に区分されます。一つは、「助ける側」（に立てる）であり、今ひとつは「助けを必要とする側」です。さらに、「助けを必要とする側」は、高齢者、幼児などの要援護者（①）と、災害により新たに発生した負傷者等（②）に分かれます。
皆様方は、「いざ災害が発生した」とき、どんな行動をしているとイメージしておられるでしょうか？　きっと日頃の訓練や準備した成果を十二分に発揮して、地域の

被災者の救出・支援に活躍されておられる姿だと思います。崇高なことです。
しかし、その活躍にはひとつの「絶対条件」があります。それは、「助けを必要とする側（②）」にはならない、すなわち、「自分や自分の家族が、死なない・怪我をしない」ということです。
阪神・淡路大震災では、「犠牲になる」か「生き残る」かは紙一重、偶然性もある、ということを数多くの被災者からお聞きしました。しかし、結果として両者には雲泥の差があります。私たちは「なんとしても生き残る」努力をしなければなりません。

人間の基本心理に、「正常化の偏見」というのがあります。簡単に言いますと、人間は自分にとって都合のよいことはどんどん考えが進み、展開して行きますが、都合の悪いことは、あるところまで考えると思考がストップしてしまう、ということです。防災について考えるときも、自分にとって最も都合の悪いこと、自分（や家族）が死ぬことはなかなかイメージ・アップできないのです。極論すれば、どんな大きな災害（事故）に遭っても、自分だけは決して死なないことになっているのです。したがって、自分や自分の家族の安全については、心の底では「多分大丈夫だろう」という意識があり、ついつい備えがおろそかになりがちです。

防災の原点は「一人ひとりが自分の命を大切にすること」であり、その積み重ねが防災だと、私は思っております。
私たちが「助ける側」にたって活動するためには、その前に、「助けを必要とする側（②）」にならないよう「自分や自分の家族の安全・安心」のことを思い、「今、何をしなければならないか」を考え、実行しておくことが必要です。
少子高齢化や人口の都市集中などの社会現象は、「助ける側」と「助けを必要とする側（①＋②）」の比率をますます厳しくしております。「助ける側」の組織を充実・拡充するとともに、小・中学生や高校生などを啓発・訓練し、新たな戦力として確保することは非常に重要です。加えて、「助けを必要とする側（②）」を増やさない啓発活動及び「助ける側」の担い手を減らさないこと、すなわち、防災の原点「自助」にも立ち返ることも重要であると思います。

さぬき市立松尾小学校児童･先生･保護者

地域の皆さんと一体の防災訓練

さぬき市大川町　寒川　英樹

丸亀市川西地区自主防災会のご支援を得て、この度初めて小学校と地域が一体となった「防災訓練」が開催されました。

今日まで校区全域での取組みには、紆余曲折ありましたが、地域の各種団体のお力添え、更に校長先生を始め諸先生、並びにＰＴＡ役員の皆さんの支援により、１月２９日（土）実施の運びとなりました。

約２００名の参加を得て、午前１０時から正午まで、松尾小学校グランドを使い５種類の訓練を行いました。

子供も大人も一生懸命に土のう作りや担架搬送に汗をかきました。お昼は、婦人会の皆さんが作ってくれた温かい牛丼を、美味しくいただきました。

改めて、川西地区自主防災会の皆様、学校関係、各団体、ご参加の皆様ありがとうございました。

先日はありがとうございました。訓練では、緊急の場合の担架や土のうの作り方を分かりやすく教えていただき、もし災害が起こった時にはどう対処すればよいのかわかりました。とても有意気な体験ができました。

この間阪神大震災のニュースを見ました。僕たちはその時まだ生まれていませんでしたが、それを見て改めて大きな災害だったと思いました。それと同時に人々の助け合いやつながりが神戸の町の復興を支えたのだと分かりました。訓練で学んだことをしかり胸に刻み、もし大きな災害がこの地域に起こったときには少しでも役に立てるようにしたいと思いました。

またまた寒いので、お体に気をつけてお過ごしください。

松尾小学校 5年 村上千

先日は、防災訓練を教えに来てくださり、ありがとうございました。

わたしは、毛布と竹でたんかが、かん単に作れたのでびっくりしました。たんかに人をのせて運ぶのは、重いのかなと思いましたが、みんなで、協力して運ぶと、そんなに重くなかったので、もしものときは、みんなと協力することが1番大切だと感じました。

土のうをつくるなど初めてでしたが、わたしたちにとっては良いけいけんになりました。もしもの時には、これらの経験を生かし、応じたいです。

松尾小 五年 田村久留美

事務局だより

平成23年2月

かがわ自主ぼうの事務局を担当している「川西地区自主防災会」最近の活動を紹介します。

１．ニュージーランド地震

２月２２日ニュージーランド南島のクライストチャーチ付近で起きたM6.3 の地震、日本からも救援隊が出動し、現在も救援活動が続いております。一人でも多くの方が助かることを心より祈っております。

さて、災害発生時、瞬時の判断力が生死を分けることになるといわれますが、この判断力は、数多くの実践訓練によって培われていくものです。そこで、年間に１～２度の防災訓練を体験することは、自身や家族を守る大切な要素になる思います。　　（岩崎筆）

２．丸亀市立城辰小学校防災研修

２月２４日（木）、丸亀市立城辰小学校の５年生児童８０名が、防災研修を行いました。そのひとコマをここにご紹介します。

編集後記

今月の防災減災の輪は、**香川県防災局　防災指導監　乃田様**に原稿をお願いいたしました。又、地域の紹介**はさぬき市大川町　寒川様**にお願いいたしました。共にお忙しい中、誠にありがとうございました。